

# 私たち住民の手で、大阪の大気汚染を測ろう 「ソラダス2012」の実施に向けて

大阪から公害をなくす会 / 「ソラダス2012」実行委員会

「ソラダス2012」とは、大阪のNO<sub>2</sub>(二酸化窒素)濃度を私たち住民の手で直接測定して、大気汚染を確かめようという運動です。天谷(あまや)式カプセルを利用し、空気中のNO<sub>2</sub>濃度を、日時を決めて大阪府域全体でいっせいに測るのです。こうした測定(メッシュ測定)とともに、幹線道路沿道の問題点を明らかにしたり団体として取り組む「自主測定」も実施しています。

ソラダスはこれまで5~6年ごとに実施してきており、「ソラダス2012」は7回目になります。

## ソラダス運動を続ける意義 ……大気汚染の現状と環境行政

### **人の健康を守るというより、行政の都合で運用されている NO<sub>2</sub>環境基準**

環境基準は、汚染状態の評価、汚染の予防や改善、汚染物質の排出規制、被害補償など、環境行政全般にわたる重要な判断基準です。ですから何よりも人の健康を守るために運用されるべきです。にもかかわらず NO<sub>2</sub>環境基準は行政の都合優先で扱われています。

NO<sub>2</sub>環境基準は40~60ppbであるのに、事実上その最悪値60ppbを基準として扱う、国行政は環境基準達成の義務がありますが、1978年現行環境基準設定以来、30年以上経った今になっても、達成されていません

国行政は常に適切な科学的判断を加えて基準を見直すよう義務付けられていますが、30年以上放置しています。環境省自身が実施した1986~1990年、1992~1995年、最近の2005~2009年などの健康影響調査のいずれにおいても、現行環境基準以下でも健康影響が明らかになっているのに基準は改定されないままになっています。

### **信頼性低下が心配される国行政の大気環境監視**

信頼できる、正確で的確な大気汚染濃度の測定は、すべての環境行政の出発点となる最も基本的な業務です。しかし最近の行政による監視は信頼度が低下しているようで心配です。最近 NO<sub>2</sub>などの濃度測定法が変更されましたが、新しい測定法は従来測定法よりも測定値が低い側に食い違う傾向がみられるのに、修正されないまま使われている測定データがあります。環境部局の規模縮小や他部局との統合、測定器管理の民間業者任せが進んでいます。測定点の変更で測定データの継続性が低下したり、住民が設置を要請しても応えていない。

### **なかなか進まない自動車排ガス汚染対策**

窒素酸化物、粒子状物質、光化学オキシダント、揮発性有機化合物など、現在の大気汚染の主な排出源は自動車、中でもディーゼル自動車です。

1992年、10年後に環境基準を達成するとして実施された自動車NO<sub>x</sub>総量規制法は効き目なくて失敗、引き続いて2010年度達成目標として導入された自動車NO<sub>x</sub>・PM法でも達成されず、いまだ沿道を中心に深刻な自動車排ガス汚染が続いています。

### **増え続けているぜん息、呼吸器系健康障害**

文科省が集計している学校保健統計によれば、小・中学校学童、高校生などのぜん息被患率が年々増大しています。中でも大阪の被患率は全国平均の数倍もあります。

成人でも呼吸器系の健康障害で苦しんでいる人はたくさんおられます。

昨年発表された環境省の調査でも、自動車排ガス汚染による健康影響が明らかになっています。

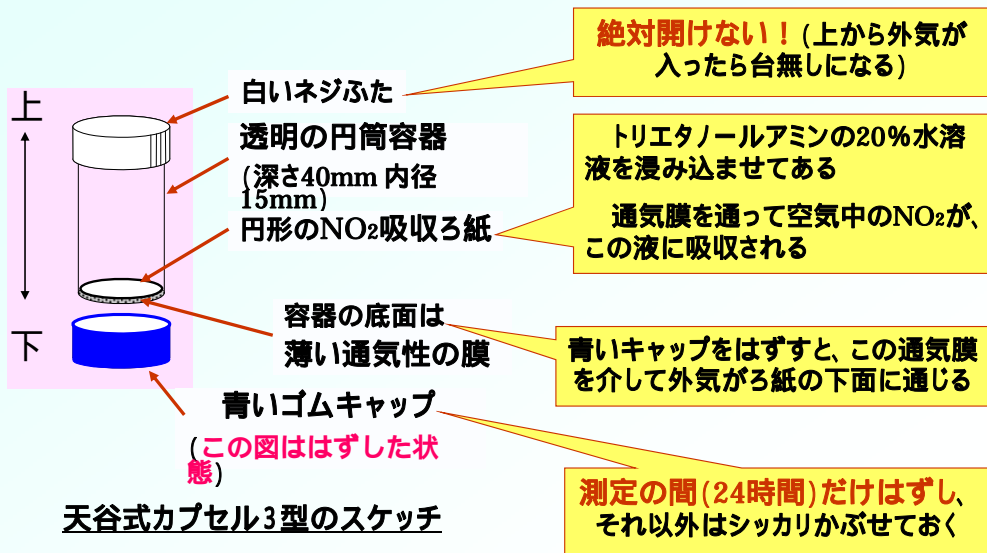
### **住民や被害者自身が大気環境の監視運動を続けていくのが大切**

ぜん息などにかかる学童は増え続けています。その主な原因である自動車排ガス汚染の改善は遅々として進んでいません。そんな中で環境行政は環境基準を機能不全に陥らせ、最も基本となる環境測定の信頼性も低下させるような、怠慢と言わざるを得ない有様になっています。

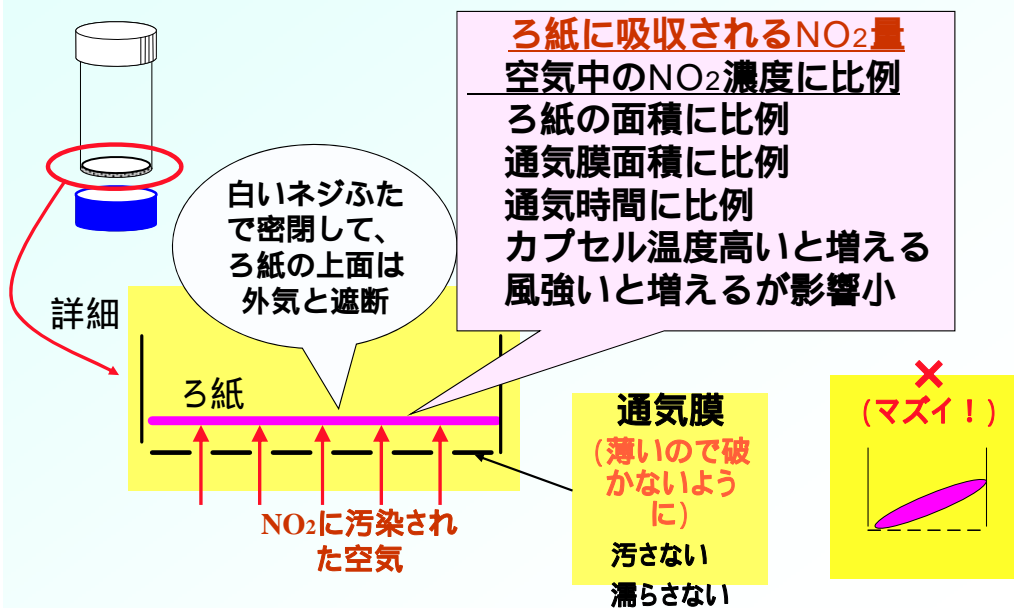
大気汚染に苦しめられるのは私たち住民です。私たち自身の手でNO<sub>2</sub>濃度を測り、汚染の実態をつかみ、行政や産業界に訴えていくことが大切です。

NO<sub>x</sub>やPMなどいろいろな大気汚染の主な原因は自動車排ガスです。NO<sub>2</sub>を測れば、現在の大気汚染の実情がわかります。

## 天谷式NO<sub>2</sub>簡易測定法について 1 天谷式カプセル3型



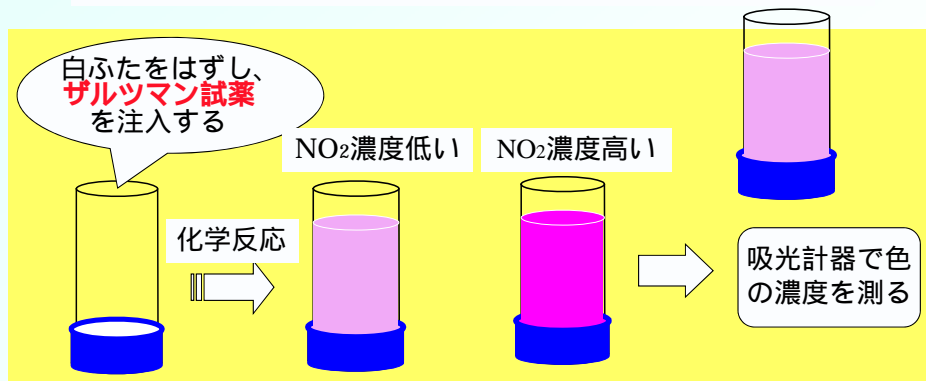
## 天谷式NO<sub>2</sub>簡易測定法について 2 NO<sub>2</sub>の吸収原理と注意する点



# カプセル分析

## ろ紙に吸収されたNO<sub>2</sub>量を測る

原理（ザルツマン法）は国の指定測定法の1つ  
 ザルツマン試薬がろ紙に吸収されたNO<sub>2</sub>と反応して発色する  
 色の濃度が吸収されたNO<sub>2</sub>量に比例する  
 色の濃度を測ることでNO<sub>2</sub>の量を求められる

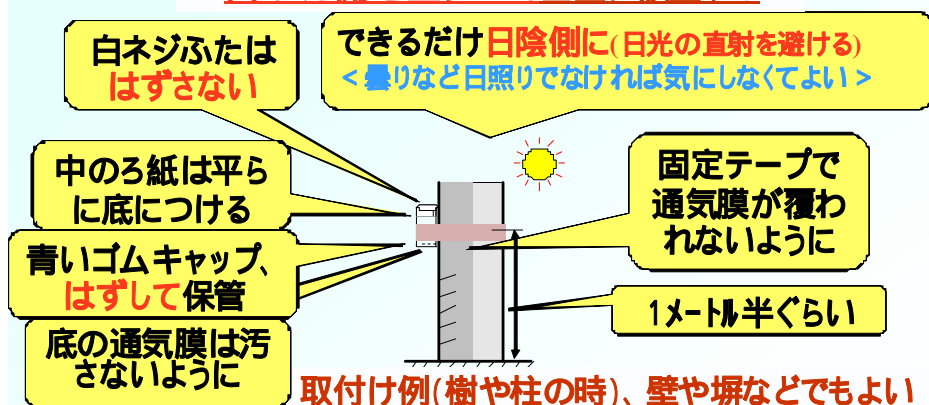


\*\*\*\*\*

### カプセルの設置(5月17日午後6時)、回収(翌日午後6時)

#### カプセルを取り付ける時の注意

**白ふた側を上にして垂直に設置する**



#### カプセルを回収する時の注意

**はずしたら直ぐにゴムキャップをはめる**

<ご注意>今までの失敗例では、設置(回収)時間を忘れた、青いゴムキャップを外し忘れた、逆さにつけた、白ネジふたを外してしまった、回収に行ったら落ちていた、などがあります。

## 「ソラダス 2012」実施に向けて

### 主な日程

2012年

3月～4月中旬 本部事務局(カプセル、健康アンケートなど諸準備)  
地域実行委員会 \*カプセル設置体制づくり、学習会・説明会など  
\* **カプセル必要個数の注文(4月18日まで)**に本部事務局へ)

4月18日(水)18:30 実行委員会総会 民医連会議室 (全地域実行委員会参加)

4月29日(日)10:00 **カプセルろ紙入れ作業** 民医連会議室  
\* **すべての地域実行委員会が集まり**、みんなでろ紙入れ作業をする  
\* 各地域実行委は、注文した数のカプセル、および健康アンケート用紙を受け取って持ち帰る

4月30日～5月16日

地域実行委員会…カプセル測定の準備  
\* ラベルづくりとカプセルへの貼り付け  
\* 記入用紙づくり  
\* 設置回収担当者へカプセル、記入用紙、健康アンケート用紙の配布など

5月17日(木)18:00 **カプセル取り付け(雨天決行)**  
(注意) 青ゴムキャップをはずして保管、白ネジぶたは締めたまま、白ふたの方を上にして取り付ける

5月18日(金)18:00 **カプセル回収**  
(注意) 青ゴムキャップを忘れずに持って行くこと  
カプセル取り外したら直ぐに青ゴムキャップをシッカリかぶせる

回収したカプセルは、地域・団体ごとに集め、出来るだけ気温が低く、直射日光の当たらない所で保管して下さい。

健康アンケートの記入回収……5月中に記入してもらい、地域実行委で回収する。

回収記入済み用紙は「なくす会」事務所へ送付する(または、6月3日の下記カプセル分析作業にご持参下さい)

6月3日(日)10:00 **カプセル分析作業**(場所:耳原病院の旭ヶ丘会館)  
\* **すべての地域実行委員会、自主測定グループが、カプセルを持ち寄って**、民医連の検査技師の方々と一緒に、みんなで作業します  
(注意) \* 各地域実行委、自主測定グループは設置回収したカプセルを持参する

\*\*\*\*\*

6月3日以後 本部事務局…測定結果の収集整理  
整理でき次第、地域実行委員会にデータを送付する

11月～「なくす会」公害デー 全体結果の報告会を企画する